

第3回 後志利別川整備計画検討委員会 議事要旨

■日 時：令和4年9月9日（金曜）9：00～11：15

■場 所：今金町民センター 2F大会議室（ZoomによるWEB開催併用）

■出席者：中津川委員長、井上副委員長（WEB）、岩崎委員（WEB）、卜部委員（WEB）、川崎委員、鈴木委員（WEB）、千葉委員、宮本委員（以上8名）

※委員長、副委員長以降の順は五十音順

■議 題

- （1）後志利別川整備計画検討委員会について
- （2）後志利別川流域の現状・沿革
- （3）現行整備計画の進捗と成果
- （4）気候変動による水害リスクの変化
- （5）後志利別川における今後の課題

■議事要旨

議事に入る前に、委員長の選出を行い、事務局案として中津川委員を推薦し承認された。また、副委員長は中津川委員より井上委員が指名され、承認された。

- （1）後志利別川整備計画検討委員会について

特段意見無し

- （2）後志利別川流域の現状・沿革

・資料21ページの魚類遡上可能区間について、誤解がないよう説明を加えてほしい。

（委員）

→承知した。（事務局）

・資料13ページに令和4年8月の今金地点流量が1,300m³/sとあるが、現行整備計画流量はどれくらいか。（委員）

→今金地点流量は、美利河ダム調整なしで1,200m³/s、美利河ダム調整ありで1,000m³/sとなっている。（事務局）

→現行整備計画流量に対してどれくらいかわかるような資料にした方がよい。（委員）

→承知した。（事務局）

・資料13ページに平成24年5月洪水が記載されているが、昨日の現地視察で聞いた

河道閉塞についても記載した方が良い。(委員)

→承知した。(事務局)

(3) 現行整備計画の進捗と成果

- ・資料33ページにタイムラインの記載があるが、近年は本川の溢水・破堤よりも支川での氾濫、バックウォーター、合流部での氾濫が多い。北海道管理区間や町と情報を共有しているのか。(委員)

→流域タイムラインは北海道も参画している。例えば、愛知1号樋門の開閉状況等は北海道やせたな町とも情報を共有している。(事務局)

→流域治水は、直轄区間だけでなく支川や内水氾濫などの把握も重要である。タイムラインだけではなく町の情報やハザードマップの取組等も盛り込んではどうか。(委員)

→流域の2町はハザードマップを作成しており、ソフトの取組みなど原案作成の段階には資料に記載したい。(事務局)

- ・資料34ページの河川利用では、カヌーやラフティングの乗り降り場の整備について、アウトドア事業者と協議しているか。(委員)

→現在のところ実施していない。今後の河川利用に向けてニーズを確認し今後検討していきたい。(事務局)

- ・資料29ページに記載がある今年の8月洪水で避難指示は出ていたと思うが、避難情報や避難状況に関して教えてほしい。(委員)

→町内無線で情報提供し、避難されたと聞いている。避難率等の詳細については今金町に確認する。(事務局)

- ・8月の出水での河道内の現象や洪水時の攪乱等をどのようにまとめられているか教えてほしい。(委員)

→出水後のパトロールでは河岸侵食は発生していないが、水位計や橋梁付近に流木等が堆積していた。高水敷等の被災は確認されなかった。(事務局)

→現地視察で確認したところ河畔林はあまり生えてない印象だが、下流の中州には河畔林があり、これらの中州や河畔林をどうするかは河川管理上の課題となる。(委員)

- ・資料35ページのチュウシベツ川におけるサクラマス産卵床確認数について、美利河ダム魚道供用前のデータがあれば追加して、供用の前後で比較したほうが効果が明ら

かになるのではないか。(委員)

→承知した。(事務局)

- ・資料29ページに今金基準点の降雨量のグラフについて、令和4年8月洪水は基本方針の降雨量を上回っているが、降雨の地域分布等により流量は基本方針の流量を超えていない等を記載してほしい。(委員)

→承知した。(事務局)

(4) 気候変動による水害リスクの変化

- ・資料43ページ右側の最大浸水深と最大水位上昇量の図の意味がわかりにくいため、過去実験と対比する等わかりやすくしてほしい。(委員)

→承知した。(事務局)

- ・資料43ページで役場が浸水する場合、具体的にどうしていくか。(委員)

→地元と協議した上で今後の対応を考えていく。(事務局)

(5) 後志利別川における今後の課題

- ・今金町の貴重な文化財についても、洪水被害がないような体制を作っていかなければと思う。(委員)

- ・災害時の観光客の誘導や情報発信方法も考えていかなければならない。(委員)

- ・防災の司令塔となる河川事務所が川の近くにあるのはBCPの観点からも考えるべきではないか。(委員)

- ・流域治水への転換という事が重要であると理解した。氾濫を防ぐ対策としては河道掘削がメインとなるが、洪水被害を防ぎながら、魚類の生息環境にも配慮していくことが重要な取組みと考える。(委員)

- ・役場、学校、生活関連施設、避難所、避難経路など地域性や地域の生活を考慮した計画を立てて頂きたい。(委員)

以上